

来てほしくないときに、台風は来る

OWCC 中川和道 20190818

今年 2019 年のお盆休み後半の山行は、台風 10 号に見事につぶされた。立山山頂ライブカメラ映像[1]で台風独特の流れる雲を見ながら、45 年前に穂高で台風にたたかれたことを思い出した。あの時、もっといい対処があったのかと、ずっと心に引っかかっているからだ。

1975 年頃のお盆休み、愛知労山 T 海山岳会の仲間たちと中川は奥又白池のほとりにベースキャンプをかまえ、奥又の岩場を登っていた。何本かルートに登った初日だけに、台風が翌々日に穂高を通ることが分かった。強風域がかかるのは翌日の夕暮れだという。ならば翌日は思い切り早くから登攀を始めてギリギリまで行動ルートを何本か登ってしまおう、そのあと急いで下山だ、徳沢泊で台風の通過を待とう、と各パーティーは勇んで岩場に向かった。

ここで我々はワナにはまった。清水 RCC ダイレクトルートという困難度において最右翼のルートに挑んだ会の最強パーティーのリードが墜落し、20m 空中を落ちるという事故を起こしたのだ。そりゃあ、可能性は覚悟していたものの、起きてほしくない時に、事故というものは、まさしく起きてしまうものだ。マーフィーの法則とか言ったっけ？幸い、リードが猛者ならビレイヤーも猛者。何と、彼はグリップビレイで制動確保を試みて成功、2 人は生還した。リードはろっ骨にひびが入ったそうで、夕暮れ遅く、苦しそうにテントに 2 人は帰ってきた。空身なら動けるものの、フル装備は担げない。これでは、夕暮れからの下山という作戦は実行不可能である。痛そうなうめき声を聴きながらその夜を過ごすうちに、風がだんだん強くなってきた。

夜に外に出た中川はびっくり。かすかに明るい穂高の山々を舐めるように、たくさんの白い雲が流れながらゆっくりと動いていたのだ。2500m から 3000m の高さだけに白い雲が流れていて、天は晴れていて星が見える。こんな光景は見たことがなかった。間違いなくすごい絶景だ。台風直前の山の美に、中川はすっかり魅せられてしまった。暗いので写真撮影は無理だった。

朝になると、「山の美」は一転「危険な力」に。奥又白の池一帯は白い雨雲と霧にすっぽりと包まれて視界を失い、風は本格的に吹いてきた。山々が時折ゴーッと吠える。強風域本体がやってきたのだ。けが人は相変わらず痛そうだ。下山開始をためらって、数時間、様子を見る。

そのうち、テント内で円座に構えた仲間のひとりが、「だれだ、殴ったのは」と騒ぎ出した。みな口を開けてポカン。別の仲間がまた「殴られた」と叫んだので、それで分かった、フライシートが風にあおられたさい、張綱の石がテントを直撃し、中の仲間を次々と殴っていたのだ。そのうちにテントもぐんと傾いてきた。このままでは、石に殴られてケガ人が出るし、テントはつぶれる。ついに屋前、ごうごうと吹きすさぶ烈風の中、テントを撤収した。

奥又白の池を出て、松高ルンゼ・中畠新道を下ると、風はぐんぐん弱くなった。その日は、徳沢にて幕営。台風は頭上を通過したが、大きな木々が多い徳沢キャンプ場は安全だった。

振り返って思う。「台風の前に 1 本登って下山」は、本当に危ない作戦だ。もし事故を起こしてしまうと、台風にもろにつかまるからだ。台風到来の予想時刻はしばしば変わる。あの時も、うまいことに遅れてくれれば、こんなにえらい目にはあわなくて済んだ。でも、来てほしくないときに、台風は来る。山の神様って、本当に、いじわるだ。

[1] 「山のライブカメラ」<http://www.yama-live.com/yamalive.htm> から「立山 山頂」を選択